ユリのりん片繁殖に関する研究

（第2報）　テツポウユリのさし床水分環境について

松川時晴・＊木野正実

（福岡県園芸試験場・＊福岡県嘉穂農業改良普及所）

MATSUKAWA, T. and KINO, M.
Studies on the Scale Propagation of Lily.
(II) On the Moisture Content in Propagation Bed.

さし床の水分含量は一般のさし木繁殖と同じくりん片繁殖でも温度，酸素などと同様に必須条件であり，影響が大きい。本報告は環境要因としての水分環境が新球の形成・肥大に及ぼす影響について検討した。

試験方法

鹿児島県沖永良部島産のテツポウユリ・殿下1号，ジョージァおよびひのもとの3品種を用いて，昭和45年7月11日にグリーンチオノック（55g／30ℓ）1時間消毒後，りん片を剥除し，7月15日に第1表の処理後，10区と11区以外は球根貯蔵庫においた。

結果と考察

新球根の始原体の形成は各品種ともにミスト区では14日後に全部の母りん片から始原体が形成され，その数も多かった。ついで露地区，湿潤材料充填区の順であり，特に初期に始原体形成が優れていたが，無充填区ではおとった。始原体形成は5週間目に殆んど完了し，その後，新球根が急速に肥大した。殿下1号では露地区を100%とした場合，ミスト区が最も優れて肥大率は最高時の8月19日（5週間目）には496%で，その後の肥大も順調であった。ついで，湿潤材料充填区の284～299%の順に優れ，無充填区では特に肥大が劣った。ジョージァ，ひのもとの両品種ともに同傾向を示した。新球根の発根はミスト区および湿潤材料充填区では3～4週間目に始まり，根数はミスト区が初期から優れ，殿下1号では6週間目の8月27日には65%の発根を示し，湿潤材料充填区では発根率が16%と劣った，穴あきポリ袋区および密封暗黒区では発根しなかった。新球根の出葉率は殿下1号ミスト区では57.5%，ジョージア露地区では46.3%，ひのもとミスト区では13.8%であった。

以上から，水分，湿度の条件は新球根の形成，肥大，発根および出葉に大きく関与し，りん片繁殖における各要因の第1条件と考えられる。特に初期の始原体の形成とその後の肥大に影響が大きく，中でもミスト区はすべてにおいて最も優れ，ついで露地区，湿潤材料区の順であり，その他の乾燥区では極度におとり全く実用性が認められなかった。実際面では湿潤材料充填区が注目され，ある程度までは新球根を肥大させた後，りん片をさせば初期の新球根の形成，そろい，ほ場利用が短期などの利点がある。

第1表　水分環境と新球根の肥大過程　（球径mm）

区	処理方法	新球根の球径								
		7月29日	8月5日	8月11日	8月19日	8月27日	9月9日	9月17日	10月1日	10月21日
1	穴あきポリ袋詰め　無充填	0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	しおれ
2	ポリ袋詰め完封　〃	1.0	1.1	1.3	1.3	1.3	1.7	2.0	2.7	3.5
3	〃　密封　〃	1.0	1.0	1.0	1.1	1.1	1.4	1.4	1.4	2.1
4	〃　〃　湿潤山砂	2.2	2.4	2.4	2.7	3.7	5.2	6.3	8.0	10.2
5	〃　〃　〃 オガクズ	1.8	1.8	1.8	2.5	3.9	5.3	6.7	8.7	10.8
6	〃　〃　〃 バーミキュライト	1.8	1.8	2.0	2.8	3.7	5.5	6.9	8.1	10.7
7	〃　〃　〃 ピートモス	1.8	1.8	1.8	2.3	3.8	4.9	6.9	7.8	10.3
8	〃　乾燥	1.0	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	1.2	1.3	1.7
9	〃　〃　湿潤ピート＋パーライト	1.5	1.6	1.6	1.6	1.7	2.7	3.4	5.7	8.0
10	自然環境露地土中さし	1.0	1.2	1.2	1.3	1.3	1.9	2.7	3.6	5.6
11	ミスト環境土中さし	2.1	2.5	3.4	4.9	6.1	7.1	8.7	9.5	11.0
12	ポリ袋詰め，密封，暗黒，無充填	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	しおれ